



フュージョンシーンにアールクルーが登場して以来、人々のアコースティックサウンドに対する認識も若干変化した感があります。時を同じくしてその頃、全米でも発売されたパラスティックシリーズ。当然、彼の目にも止まった事は言うまでもありません。時代と共に変化して行く音楽と楽器、ここにも素晴らしいひとつの出逢いがありました。

PTG-018

..... ¥180,000

(専用ハードケース NO-150GC ¥15,000) ☆トップ=スズ松 ☆サイド&バック=ローズウッド ☆フィンガーボード=エボニー ☆ブリッジ=ハカランダ ☆ネック=マホガニー ☆マシンヘッド=タカミネオリジナル ☆ピックアップ=PALATHETIC® ☆コントロール=ゲイン×1 トレブル×1 ベース×1



(PTG-015 ¥150,000もありです。)



世界初の2種類のステレオシステムを搭載し、パラスティックのメリットである各弦独立集音方式を完全に生かしたモデルです。2台のアンプ間を縦横無尽に飛び交う立体感あふれるステレオサウンドを一度あなたも体験して見て下さい。このモデルの登場により現在のところ他社の従来のままのピックアップ方式では追従が不可能となりました。

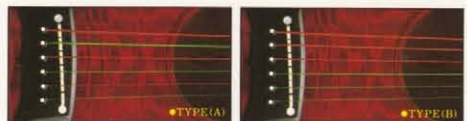
PT-015 (ST)

..... ¥150,000

(専用ハードケース NO-160 ¥16,000) ☆トップ=メイプル ☆サイド&バック=メイプル ☆フィンガーボード=エボニー ☆ブリッジ=エボニー ☆ネック=メイプル ☆マシンヘッド=タカミネオリジナル ☆ピックアップ=STEREO PALATHETIC® ☆コントロール=ゲイン×1 トレブル×1 ベース×1 ☆スイッチ=システムセレクト×1 (1・2・3 / 4・5・6) (1・3・5 / 2・4・6) ☆アウトプット=モノラル×1 ステレオ×1 ☆カラー=ワインレッド ☆附属品=ステレオコード 6m (3mデュアル)×1

TYPE(A) 片側のアンプから1・3・5弦の音、もう一方のアンプから2・4・6弦の音が出せます。従来のストローク奏法やアルペジオ奏法で弾いても、音の広がりや全く違います。

TYPE(B) 片側のアンプから1・2・3弦の音、もう一方のアンプから4・5・6弦の音が出せます。カーターファミリー奏法や、親指でオルタネイティブリックパターンを用いるフィンガー奏法で弾くと、まるで2人で弾いているような効果があります。



このパラスティックステレオ方式を他のモデルでご希望の方はスペシャルオーダーにてお受け致します。その際価格は、このカタログに記載している各モデルを基本にした場合定価30,000円アップにて可能です。納期はおよそ発注後40日。詳細は全国の有名楽器店でお尋ね下さい。但しガット弦を張ったモデル(PTG-007-015-018)には開発中ですのてあしからず御了承下さい。

延長自由自在、そしてプラスαの機能、ステレオボックス。

PT-015(Stereo)から附属のステレオコード(3m)でこのボックスにつなぎ、後は手持ちのシールドコード(モノラル)で自由自在に距離を延長する事ができます。さらにフットスイッチを切り換えると、ステレオサウンドから今度2台のアンプからそれぞれ1-6弦までの音が出るように切り換わります。この場合、たとえば片側はエフェクトされた音、もう一方はオーラルの音、など使い道はさらに広がります。

■STEREO-BOX ¥11,000



エレキアコースティックギター専用アンプ モス-D

プロフェッショナル指向のハイグレードなエレクトロニクス機器ブランドモス-Dがエレキアコースティックギター専用アンプを開発。従来のエレキギター用アンプなどで使用されて来た、エレキアコースティックギターのサウンドはその性質上音質成分が多く含まれる為、基本的に、エレキギター用アンプで再生するのは不可能です。このモス-D、MDA-1200ATは特性をエレキアコースティックギター用に合わせて設定されている為、エレキアコースティックギターの持つ本来のポテンシャルを最大(再生)します。

- 入力=ハイ、ロー
- コントロール=ボリューム、ハイトレブル、トレブル、ミドル、ベース、ローパス、リバーブ
- スイッチ=電源、スタンバイ、クランド
- その他=ラインイン、ラインアウト、リバーブフットスイッチジャック、サービスマンAC300W
- 出力=60W(RMS)
- スピーカー=38cmワイドレンジ型
- スピーカーインピーダンス=8Ω
- ヒューズ容量=3A
- 消費電力=72W
- キャスター=取外し可型
- 外形寸法=526(W)×366(D)×558(H)mm
- 重量=29kg

■MDA-1200AT ¥128,000



エレキアコースティックギターと呼ばれる新たなギターの登場以来、ギター愛好家の間では賛否両論、様々な意見があるようです。ギターにピックアップが内蔵されるという事は、とくに保守的な考え方の人が多いアコースティックの世界ではなかなか簡単に理解して貰えない面が多々ありました。次に紹介するものは、それらの中でも特に多勢の人々から問われた代表的な質問とそれに対して私達の答えて来た内容です。

Q. エレ・アコって何ですか?

最近、音楽雑誌等でよく見かけるようになって来ました。元を正せば(アコースティックギターと呼ばれる)最近、エレキアコースティックと呼ばれる新たなギターの登場以来、ギター愛好家の間では賛否両論、様々な意見があるようです。ギターにピックアップが内蔵されるという事は、とくに保守的な考え方の人が多いアコースティックの世界ではなかなか簡単に理解して貰えない面が多々ありました。次に紹介するものは、それらの中でも特に多勢の人々から問われた代表的な質問とそれに対して私達の答えて来た内容です。

Q. ギターの前にマイクを置いて音を拾った方がアコースティックのナチュラルな音が出来るのではないだろうか?

その場合、ギターとマイクの距離とその設置を一端決めた後、絶対に演奏中そのポジションを動かしません。マイクとギターとの距離が遠くなるほど音量が小さくなり、近づけば音量が大きくなり同時にハウリングも起きやすくなり、また、マイクがすぐれたと全体的な音質が変化してしまいます。これだけの問題を意識しながら演奏するのはアーティストも大変面倒な事ですし、アンサンプルのバランスを覚えているミュージシャンの人にとってもアコースティックギターは頭痛の種でありました。たまた最近のアコのミュージシャンでの写真は音楽雑誌等で見て下さい。皆、ギターはどこからコードが出ているかを、あるいはエレ・アコを使っている証拠です。人前で演奏する場合エレ・アコを使えば演奏だけに集中でき、ステージを動き回る事も自由にできるのです。

Q. 市販の別売りピックアップを買って取り付けた場合と比べてどうか?

別売りのアコースティックギター用ピックアップも多くメーカーから形式や取り付け方法も様々いろいろなタイプのピックアップが出ており、価格もかなり幅があるようです。しかし、ここで考えていただきたいのは、何故、最近各社がエレ・アコと呼ばれるギターをそれぞれに苦心してピックアップを内蔵して開発したのか……? という事です。タカミネはギター音の発生源であるブリッジの内部にパラスティックリスタルと呼ばれる集音部を6つ収納しています。これは現段階で最も理想的なピックアップ取り付け位置であり、またその位置にピックアップを収納する為にはギターが完成されてからでは不可能です。さらに、ボディ自体もピックアップを通った時の音質を考慮した音造りし、ハウリングにも強いように設計されています。おわかりいただけただろうか? タカミネパラスティックは製造工程途中からアンプを使って音を増幅した時の事を考えて製作されているのです。その差は、自宅や楽器店の店頭で弾いている状態となく、ステージや、アンサンプルの中で弾く時の状況を考えながら検討して下さい。タカミネパラスティックの音の良さ、完成度の高さは大音量になる程ははっきりと証明されます。だからこそ多くの世界の一流アーティスト達がタカミネを使うのです。

あなたには御理解いただけただけでしょうか……。音楽と楽器そして弾き手と聴き手、これらは時代と共に長い年月をかけて少しずつ変化して行きます。もちろん演奏場所からその内容、さらにはそれ自体の持つ意味、役割などと言ったものが変わって行きます。それと同時に楽器も時代に合うように変化して来ただけです。しかし誤解しないで下さい、タカミネのパラスティックはエレクトロニクス時代の一端を担うつもりは全くありません。タカミネは日本でもパラスティックとして知られていますが、アメリカではウエスタンやフォーク、そしてパラスティックなどのメーカーとして知られ、ヨーロッパ方面に至ってはクラシックギターメーカーとしてのタカミネの名が先行しているのが現状です。タカミネはあくまでギターメーカーです。そして、ギター作りに「生きた木」を使い限り、永年にわたって積み重ねて来た経験と勘を備えた職人芸に頼らざるを得ない宿命を背負っている事も充分に承知しています。しかし、これがアコースティックギターを志した私達のプライドでもあります。私達はパラスティックについてこう考えています。「アコースティックギターのみが持つ選んだあたなたかみのある心地よい音色を現代の音楽との演奏形態の中でも生かして行きたい。」その為に関発したにすぎない……と。